

Our Mission to Cancer



日本医科大学 千葉北総病院
NIPPON MEDICAL SCHOOL CHIBAHOKUSOH HOSPITAL



日本医科大学千葉北総病院 院長

別所 竜蔵

総合病院におけるがん診療：そのメリットとは？

当院では2015年に「地域がん診療連携拠点病院」に認定されて以来、がん患者さんの生命予後のみならず生活の質の改善に病院挙げて全力で取り組んでまいりました。ここで、総合病院としての当院におけるがん診療について述べさせていただきます。

がんの罹患率は年齢とともに増加することが知られております。一方で年齢とともに増加する疾患はがんのみならず、心臓疾患や脳血管疾患、慢性呼吸器疾患また糖尿病の罹患率も上昇してまいります。すなわちがん単独の患者さんは年齢と共に少なくなり、併存疾患を有する患者さんが増加してまいります。当院は循環器、呼吸器、脳神経科、糖尿病代謝内科などすべての疾患に専門に対応する医療スタッフが充実しており、併存疾患を有するがん患者さんの対応が十分にとれることが最大のメリットです。

優れたがん診療の専門スタッフが勢ぞろいしていることは言うに及ばず、それぞれの併存疾患に関する専門家の横の連携には総合病院の中でもとりわけ濃密な体制を組んでおり、この点は大いに自信をもっております。がん診療に対する設備もロボット支援手術機器も2台体制であり、薬物治療、放射線治療についても万全の体制が整っております。加えて院内に2024年5月からPET-CTを導入しており、当院のみで全身を限なく探査できるようになっております。

同時に緩和ケアや支援相談窓口も充実しており、生命予後のみならず、生活の予後（生活の質）の改善にも全力で取り組んでおります。がん診療につき、何かありましたら当院のがん支援相談窓口にご連絡いただければと思います。



日本医科大学千葉北総病院 副院長
がん診療センター長
外科・消化器外科 部長

中村 慶春

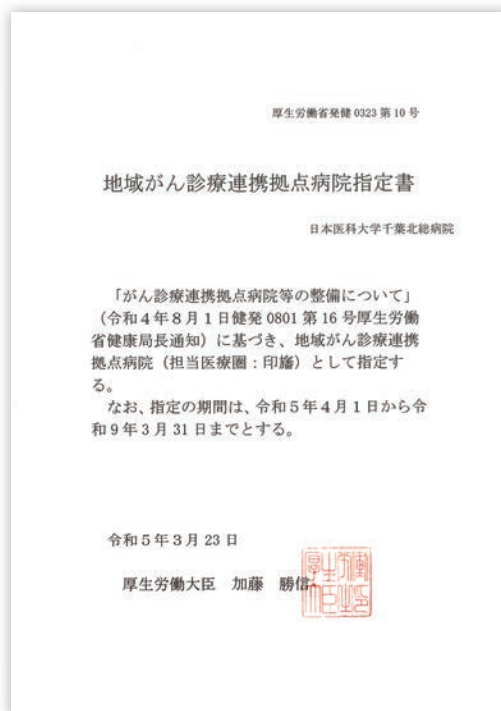
「日本医科大学千葉北総病院がん診療センター」

がんは胃、大腸、肺、脾臓、子宮、血液、皮膚など様々な臓器、組織から出現するため、その治療には多くの診療科が携わります。そして手術のみならず、化学療法、放射線治療、免疫療法などを組み合わせた集学的治療によってがんを治癒、制御していきます。日本医科大学千葉北総病院の大きな特徴として、内視鏡手術、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術、ロボット支援下手術などの低侵襲手術を各領域の専門医、技術認定医が執り行い、手術による患者さんの負担やストレスを軽減することで、化学療法、放射線治療に向けた潜在的な体力を温存し、結果としてバランスのよい集学的治療を、適切にお受け頂けるよう努めております。当院がん診療センターは、そのために必要な診療科の枠を超えた横断的な診療体制、チーム医療体制の構築を担っております。さらに「患者さんからの相談を受け、がん治療に関する最新の情報を提供する」、「地域の医療機関と連携して診療にあたる」、「患者さんのご家族のサポートをする」、「緩和医療を提供する」、「患者さんが互いに集い情報交換できる場を提供する」、「データを収集し登録する」、「自治体と協調してがん早期発見に寄与する」など、多くの役割を担っています。これらの業務が円滑・迅速に行えるように、同センターは全体を統括しております。

当院が「地域がん診療連携拠点病院」の指定病院であることを、がん診療スタッフ一同真摯に胸に秘め、これからも患者さんに寄り添い、最新で適切ながん診療を提供して参ります。

がん拠点の紹介

当院は **地域がん診療連携拠点病院** です



地域がん診療連携拠点病院として

当院は、地域の中心的役割を担う拠点病院として、千葉県から推薦をいただき、印旛保健医療圏を担当する「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。

質の高いがん診療を行う医療機関として、地域の病院やクリニックと連携を図り、最善のがん医療を提供することを目指しております。

1. 専門的ながん医療の提供

日本人に多い5大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がん）をはじめ、様々ながん種に対し、専門的医療を提供しています。また、緩和ケアや遺伝診療なども行っております。

2. 地域におけるがん診療連携協力

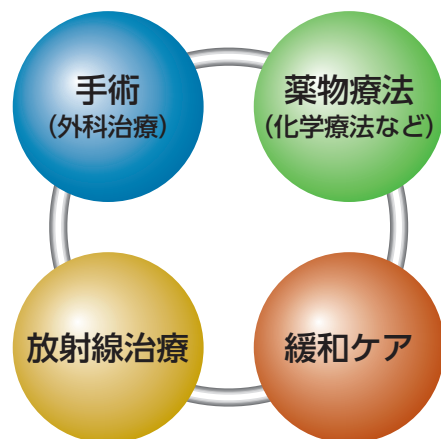
近隣の医療機関と連携を取りながら、地域におけるがん医療の向上に取り組んでおります。

3. がん患者さんに対する相談支援及び情報提供

がん相談支援センターにて、がんの治療や療養生活に関わる不安や疑問など、専門スタッフが問題解決へのお手伝いを行っています。

当院のがん診療について

当院では、医師・看護師・専門スタッフをはじめ、主科のみならず各診療科と連携を取り、手術・化学療法・放射線治療など、様々な視点から患者さんの状態に応じた適切な治療を提供するよう努めています。また、それぞれを単独で行うのではなく、これらの治療法を組み合わせることで、高い効果が期待できます。がんになったからといって、その人らしさが失われるわけではありません。“チーム医療”で患者さん一人ひとりの生活や治療の選択ができるように支援していきます。



がんの集学的治療

(1) 手術

5大がん（肺、胃、大腸、肝、乳がん）に食道がん、膵臓がん、胆道がん、膀胱がん、前立腺がん、子宮がん、卵巣がん、皮膚がん等を加えると年間1,200件以上の手術を専任スタッフがチームを作って行っています。当院では、がんの根治性を求めるだけでなく、術後のQOL（quality of life、生活の質）に配慮し、通常の胸腔鏡下手術や腹腔鏡下手術に加えて、手術支援用ロボット（DaVinci、ダヴィンチ）2機を用いた低侵襲手術、すなわち体に優しいきめ細やかな手術を行うことを特色にしています。

ダヴィンチ▶



●悪性腫瘍に係る手術件数 2025年

がんの種類	件数
大腸がん	243件
胃がん	124件
乳がん	93件
胆嚢がん・胆管がん	69件
膀胱がん	106件
子宮がん	44件
肺がん	75件
皮膚がん	53件
肝臓がん	100件
腎がん	33件
副腎がん	1件
前立腺がん	94件
卵巣がん	27件
脳腫瘍	8件
膵臓がん	67件
食道がん	22件
精巣がん	1件
その他	168件
合計	1,328件

(2) 化学療法（抗がん剤治療）

入院だけではなく、通院で抗がん剤治療を受けるために専用の治療室があります。専任の医師・薬剤師・看護師で連携し、患者さんが社会生活を営みながら治療継続ができる様支援しています。

2025年

がんの種類	件数	がんの種類	件数
肺がん	888件	肺がん	359件
乳がん	1,258件	乳がん	18件
胃がん	648件	胃がん	72件
大腸がん	1,266件	大腸がん	60件
肝がん	163件	肝がん	19件
外来合計	4,223件	入院合計	528件
5大がん合計		4,751件	

(3) 放射線治療

2025年

当院は、放射線治療専門医と放射線認定看護師、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士によるチーム体制で「安全で良質な放射線治療」を提供しています。がんに対しては、乳がん、肺がんをはじめ、前立腺がん、直腸がんに対して年間200件以上の放射線治療を行っています。

照射部位	件数
体外照射患者数	216件
内訳	
乳がん	60件
肺がん	48件
泌尿器がん	39件
婦人科がん	19件
その他	50件

緩和ケア

(1) 緩和ケアとは

がんや心不全などに伴う痛みやしびれ・だるさ・息苦しさ・吐き気などの身体症状や不安・抑うつなどの精神症状などをできる限りやわらげるのが緩和ケアです。緩和ケアでは様々な職種がチームを組み、各職種の専門性を生かして診療・ケアにあたります。緩和ケアは、患者さん・ご家族・医療者の間のコミュニケーションを重視し、患者さん本人の意向を尊重して行われます。

(2) 緩和ケアチーム診療について

当院の緩和ケア診療は、職種を横断したメンバーで構成された「緩和ケアチーム」が担っています。チームのメンバーには医師のみならず、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどの多職種が含まれています。看護師は専門性の高い看護師が携わり、医師も専門医の資格を持った外科医、精神科医、放射線科医、麻酔科医などが参加し、文字通り多職種の様々な観点から緩和ケアの治療方針を検討しています。

遺伝診療外来(院内患者さんのみ)

(1) 遺伝診療外来とは

がんは遺伝子に起こる変化が原因で発症することがわかっています。多くのがんは遺伝するものではありませんが、一部は次の世代に伝わることもあります(遺伝性がん)。

また、がんの種類によっては遺伝子を調べることで、有効な治療法が見つかることもあります。

(2) 診療内容は

- 家族性(遺伝性)の遺伝子検査
例：遺伝性乳がん・卵巣がん、遺伝性前立腺がん、遺伝性大腸がんなど
- 遺伝カウンセリング(連携病院に紹介)
- 遺伝子検査における情報提供など

* 遺伝診療はとても重要な遺伝子情報を扱うため、個人情報に配慮し、完全予約制で行います。

がん診療を支えるスペシャリスト

消化器内科

消化器内科では、消化管および肝胆膵の消化器全般の内科的診療を行っています。スタッフは現在13名で、消化器内視鏡専門医が7名在籍しています。内視鏡検査による診断、治療ともに力を入れています。早期の消化管がんを切除できる粘膜下層剥離術も積極的に行っています。例年、上部消化管内視鏡検査は3,000件（粘膜下層剥離術100例を含む）、大腸内視鏡検査は2,000件、逆行性膵胆管造影手技は500件行っています。また、切除不能がんの化学療法も行っています。必要・希望に応じてご自宅近くの病院・医院との連携・紹介を行いますので、気兼ねなくご相談ください。



部長 辰口 篤志
専門分野：消化管疾患

糖尿病・ 内分泌代謝 内科

当科では各診療科と緊密に連携し、糖尿病を持つ患者さんが安心してがん治療を受けられるようサポートしています。高血糖状態での手術は感染症のリスクを高めてしまうと言われていました。また化学療法は普段よりも血糖変動を大きくさせてしまうと言われていました。私たちはインスリン療法への切り替えなど、より安全に治療を継続するための血糖管理を提案、実施しています。また化学療法の有害事象として発症する糖尿病や甲状腺機能異常、副腎皮質機能異常についても専門的な診療を行っています。糖尿病や合併症を適切に管理し、がん治療を継続できるように主治医と協力して患者さんを支援して参ります。



部長 小林 俊介
専門分野：糖尿病・内分泌疾患

血液内科

当科は2026年4月に新体制となり、「顔の見える血液内科」を合言葉に、地域の先生方と連携した質の高い血液診療を目指しています。急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などに対し、無菌室を備えた病棟を基盤に、外来化学療法から入院治療、自家移植まで幅広く対応します。病診・病病連携を通じ、急性期治療から地域での療養支援まで切れ目なく支えます。紹介状作成前でも電話一本で専門医に相談できる「血液内科ホットライン」を開設し、迅速な初診につなげます。AML/MDSのゲノム医療など最新の知見を強みに、成田・印旛エリアの血液診療のハブとして地域とともに歩んでまいります。



部長 永田 安伸
専門分野：急性骨髄性白血病（AML）・骨髄異形成症候群（MDS）・造血器腫瘍のがんゲノム医療・造血幹細胞移植

小児科

日本医科大学千葉北総病院小児科では、医局員が一体となって発熱、咳、腹痛、感染症、アレルギー疾患など、お子さんによくみられる症状や病気に幅広く対応しています。加えて、専門性の高い領域として、小児リウマチ性疾患をはじめとする免疫の異常に関わる疾患や、低身長や糖尿病などの小児内分泌疾患のほか、慢性疲労症候群、起立性調節障害など、成長や日常生活に影響する疾患の診療にも取り組んでいます。

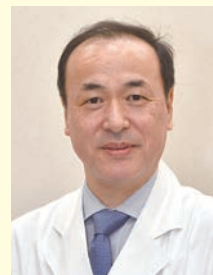
小児がん診療については、日本医科大学付属病院などの専門施設と緊密に連携し、診断や治療方針の検討、治療後のフォローアップまで、地域で安心して診療を受けられる体制づくりに努めています。



部長 榑崎 秀彦
専門分野：小児科・感染症・小児リウマチ性疾患・旅行医学

呼吸器内科

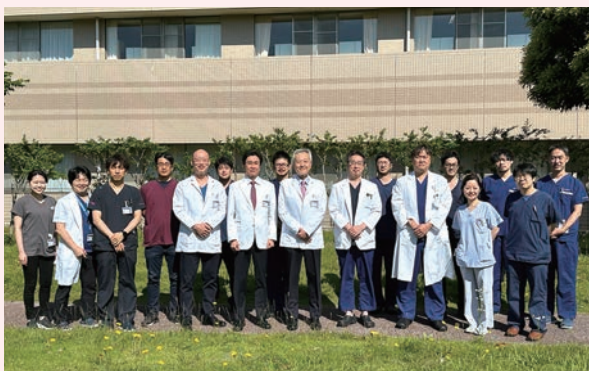
呼吸器内科では、印旛医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」として肺癌、悪性胸膜中皮腫をはじめとする胸部悪性腫瘍の内科的治療に積極的に取り組んでいます。検診などで肺に異常を指摘され方に必要に応じて胸部CT検査、気管支鏡検査、最新のPET/CT検査を行い、病気を正確に診断するとともに、がんの特徴をつかんでどの治療法がよいのか、医学的に判断できる根拠に基づいた最も有効な治療を実施しています。また、他の病気をお持ちの方に対しても専門内科医や呼吸器外科、放射線科などの医師、他の医療従事者も加えたチーム医療を行っています。当科では、多数の肺癌診療実施を誇り、豊富な臨床経験と医療技術を提供できると自信を持っています。

部長 **岡野 哲也**

専門分野：呼吸器病学・呼吸器悪性腫瘍

外科・消化器外科

消化器外科では年間900件を超える手術を行っています。特徴としては、体へのダメージを軽減できる低侵襲手術（腹腔鏡下手術）を、手術支援用ロボット（ダヴィンチ；da Vinci）手術と合わせて、多くの患者さんに提供しております。手術は日本内視鏡外科学会技術認定医（胃・大腸・肝臓・胆道・脾臓の各領域およびロボット支援手術認定プロクター）、食道外科専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医/専門医、日本膵臓学会指導医が、各領域（食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がん等）に応じて担当いたします。特に、膵臓/胆道の高難度腹腔鏡下手術の経験数は、先進医療での実績を含め400件を超え全国トップクラスです。



日本医科大学千葉北総病院 消化器外科の医局員たち（令和6年6月）

部長 **中村 慶春**

専門分野：肝・胆・膵

乳腺科

乳癌は日本人女性の9人に1人がかかる、ごく身近な病気ですが、早期に発見し、治療すれば治すことができます。そのため検診が大切であり、検診で要精査となったり、乳房の異常に気がついた時には、一人で悩まず乳腺科に足を運んでください。当院では、受診したその日にマンモグラフィ、超音波検査を行い、必要に応じて針生検まで行って、早期の診断、治療をめざしています。豊富な経験と科学的エビデンスに基づいて、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供しています。乳腺を専門とする乳がん認定看護師をはじめとし、さまざまな職種によるチーム医療で、患者さん、ご家族の悩みにも対応していますので、気軽に当院へ受診し、相談してください。

部長 **藤井 孝明**

専門分野：乳癌

呼吸器外科

呼吸器外科で扱う肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの患者さんの平均年齢は高齢化しております。ただし、当科では年齢だけで方針は決定せず、患者さんの体力、お考えに基づき、最適な治療を提供しています。当院は進行肺癌においては呼吸器内科・放射線治療の専門家と協力し、高レベルの治療を提供できると自負しております。早期肺癌は手術の重要度が高いですが、安全性・根治性・整容性のバランスを取った手術をモットーとしております。気胸・膿胸においても、若年から高齢者に至るまで難治例に対しても手術を積極的に行っております。呼吸器でお困りの場合は、まず当院にご連絡いただけたらと存じます。

部長 **吉野 直之**

専門分野：呼吸器外科

脳神経外科

脳神経外科は日本脳神経外科学会認定の基幹施設として、6名の脳神経外科学会専門医、4名の脳神経外科専修医により、年間多くの手術を行っています。脳腫瘍についても、脳への負担を考え低侵襲に手術を行うべく、様々な工夫を行い、良好な治療成績をおさめてまいりました。脳腫瘍の手術においては、時に脳血管の温存に難渋することがあり、正常な脳への障害が問題になることがあります。脳血管障害の専門医や脳血管内治療（カテーテル治療）の専門医などとも綿密な連携をとり、高度な医療を提供することで患者さんの良好な機能予後を目指し、日々診療に従事しております。



助教・医員 **尾関 友博**
専門分野：脳血管障害・脳腫瘍

整形外科

がんが骨に転移すると、強い痛みや体の動かしにくさが生じ、日常生活に大きな影響を及ぼすだけでなく、がん治療の継続が難しくなることもあります。整形外科では、こうした骨転移に対して、身体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に取り入れ治療を行っています。骨転移が多くみられる背骨（脊椎）に対しては、皮膚や筋肉を大きく切らずに背骨を安定させる経皮的脊椎固定術や、背骨に医療用の骨セメントを注入して痛みを和らげる経皮的椎体形成術などの手術を行っています。さらに、ナビゲーションシステムや透視装置などの最新の画像機器を活用することで、安全で精度の高い手術の提供に努めています。がん治療を担当する診療科と連携しながら、患者さん一人ひとりに合った最適な治療を提供できるよう心がけています。



部長 **川口 宏志**
専門分野：脊椎外科

女性診療科・産科

当科では、腹腔鏡手術やロボット支援手術を積極的に導入し、患者さんの身体的負担を軽減する低侵襲治療に力を入れています。婦人科良性疾病から悪性腫瘍まで幅広く対応しており、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの婦人科悪性腫瘍に対しても、患者さん一人ひとりの病状やライフスタイル、ご希望に合わせた治療方針を提案しています。特に腹腔鏡手術においては豊富な経験と専門性を有しており、安全性と根治性の両立を重視した治療を行っています。安心して治療を受けていただけるよう、丁寧な説明とチーム医療を大切にしています。



部長 **市川 雅男**
専門分野：腹腔鏡手術・ロボット手術

皮膚科

皮膚腫瘍というと馴染みがないかもしれませんが、ほくろも皮膚腫瘍の1つです。腫瘍には良性と悪性があり、まず肉眼と、ダーモスコピーという拡大鏡で鑑別をつけ、必要に応じて皮膚の一部を取る皮膚生検という検査や画像検査を併用し、確定診断に近づけます。その後必要に応じて、切除を含む治療を行います。

当院皮膚科では、形成外科と密に連携し、患者さんにとってより良い治療を提供出来るよう心がけております。



助教・医員 **米山 愛実**
専門分野：皮膚科腫瘍外来

泌尿器科

泌尿器がんに対する当科の取り組み

～がん患者さんの生活の質(QOL)を重視しております～

- 根治可能な腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がんなどの泌尿器がんに対して、低侵襲な術式であるロボット支援腹腔鏡下手術を積極的に行っております。
- 前立腺がんにおいて、手術を希望されない方や体力的に手術に耐えられない方などは放射線治療も行えます（入院での放射線治療も出来ます）。
- 転移がある泌尿器がんの方には、薬物療法を積極的に導入しQOLを保ちつつ、がんを可能な限りコントロールします。
- 前立腺がん術後の尿失禁で悩んでいる方には、尿道スリング術という尿失禁を改善出来る治療法を提供しております。



部長 **鈴木 康友**
専門分野：泌尿器癌・
排尿障害

放射線科

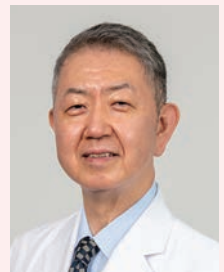
放射線科は他院や他の診療科から依頼され、がんの画像診断や治療を行っています。画像診断はCTやMRI検査の他、PET検査も行っています。従来の検査で検出不能ながんもPET検査により発見可能となり、診療に大きな力を発揮しています。治療としては放射線治療の他、カテーテルを用いた肝動脈化学塞栓療法や動注化学療法を施行しています。放射線治療は高精細な放射線治療の他、外来通院にやさしい乳がんの短期照射や単回緩和照射といった治療も積極的に導入しています。



助教・医員 **貝津 俊英**
専門分野：放射線治療

メンタルヘルス科

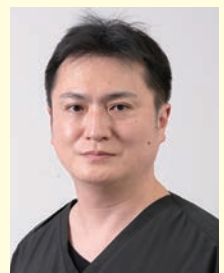
当科は3人のスタッフと4人の非常勤心理師による少人数体制で診療を行っています。特殊な科と思われることもありますが、実際には身体疾患で入院中の患者さんの心の不調を扱う精神科リエゾン活動が業務の半分を占めています。加えて、認知症ケアおよび緩和ケアチームの一員として、がん患者さんの精神的苦痛に対するケアを担当しています。疼痛管理を専門とする緩和ケア科の医師や専門の看護師と共に、週2回、医師と公認心理師が同伴して回診を行っています。家族ケアや遺族ケアなどの課題もありますが、患者さんが少しでも苦しみから解放され、生活の質が向上できるよう、気持ちに寄り添うことを心がけています。



部長 **下田 健吾**
専門分野：老年精神医学・器質性精神障害・気分障害・リエゾン精神医学

形成外科

形成外科の皮膚腫瘍診療は主に形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医により行っております。特に皮膚悪性腫瘍が疑われる患者さんに対しては、当院皮膚科の腫瘍外来と密に連携を取り、カンファレンスも適宜合同で行っております。臨床診断、生検から確実な切除、再建まで当院皮膚科と協力体制で行っており、患者さんにとって最も良い治療選択肢を提示できるよう心がけております。



部長 **石井 暢明**
専門分野：顔面再建、皮膚悪性腫瘍、熱傷、瘢痕・ケロイド、難治性潰瘍

リハビリテーション科

がん患者さんは、筋力低下による一般的な日常生活動作（移動・セルフケアなど）の障害に加え、疲労、疼痛、嚥下障害、認知障害、リンパ浮腫など、がんの種類により異なるさまざまな問題を持つことが知られています。これらの問題に対して、二次的障害を予防し、運動機能や生活機能の低下予防・改善を目的としてリハビリテーション治療を行うことは重要です。当科では、院内のがん患者さんを診療している主治医から依頼を受け、毎月50人前後（年間では2022年度は590人、2023年度は578人）のがん患者さんにリハビリテーションを行っています。当院ではすべての科がワンチームとなり、患者さんに最適な医療を提供しています。



部長 和田 勇治

専門分野：リハビリテーション医療全般

歯科

周術期口腔機能管理とはがんの手術などを全身麻酔で行う場合、その周術期に歯科治療や口腔ケアを行うことにより、手術に伴うさまざまな合併症を予防しようとするものです。また、外科手術に限らず化学療法・放射線治療においても、治療の前後において歯科治療や口腔ケアを実施し、治療に伴う合併症を同様に予防しています。特に、2015年より当院は地域がん診療連携拠点病院に認定されており、今後も周術期口腔機能管理は当院において非常に重要な診療業務であると考え今後も継続してまいります。周術期口腔機能管理専用の歯科処置室も完備しており、外来一般歯科診療に劣らず力を入れています。



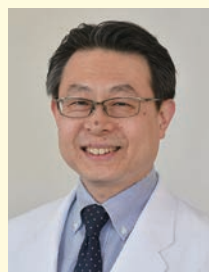
部長 吉峰 正彌

専門分野：補綴・歯周病・歯科保存

麻酔科

麻酔科の主な役割は、みなさんが手術を受ける際に痛みと意識を無くし、安全に治療を受けられるようにすることです。外科医が最善の手術をすることができる環境を提供し、良質な手術を受けられるようにしています。更にはみなさんが不安なく手術に臨むことができ、術後も可能な限り痛みなく過ごせるように、麻酔科は工夫をしています。例えば複数の職種で構成される術後疼痛管理チームを作り、術後の痛みや合併症を少しでも減らすことができるように活動しています。

また、週に3回、ペインクリニック外来を開設し、慢性疼痛などの治療を行っています。本イベントを機会に、麻酔科という名前を知っていただければ幸いです。



部長 金 徹

専門分野：麻酔科学全般・
ペインクリニック全般・
呼吸中枢の酸素感知応答

緩和ケア科

緩和ケア科は、がんや心不全などの患者さんとその御家族が苦痛や苦悩を感じることなく過ごせるようにお手伝いをする診療科です。痛みはもちろんのこと、病気に伴う不安や喪失感、仕事に関する心配、漠然とした不安感、御家族の葛藤や苦しみなどが少しでも和らぐようにすることが我々の役割です。この役割を果たすために、病棟では医師、看護師、薬剤師、公認心理士、ソーシャルワーカーなどの多職種からなる緩和ケアチームを組織して活動しています。

また、毎週金曜日の午後に緩和ケア外来を開設し、がんなどの痛みのコントロールなどを行っていますので、遠慮なく御利用いただければと思います。

部長 金 徹

専門分野：
麻酔科学全般・
ペインクリニック全般・
呼吸中枢の酸素感知応答

病理診断科

病理診断科とは？

病理診断科は、がんなどの診断を専門に行う部門です。検査や手術で採取された細胞を顕微鏡などで詳しく調べ診断や治療の方針を決定します。病気の遺伝情報を調べるゲノム (DNA) 病理診断では、遺伝子変異からがんの特性を明らかにします。

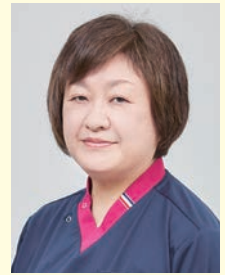
- 特徴**
- 専門性の高い診断：専門の病理医が診断を担当し、最新の技術と知識を駆使して、正確で詳細な診断を行います。
 - チーム医療：他の診療科と連携し、患者さんの診断と治療を総合的にサポートします。
 - ゲノム診断：がんの種類や特徴は、患者さんごとに異なる遺伝的な変異によって決まります。がん細胞に特有の遺伝子変異を特定することで、最適な治療法を選ぶことができます。



部長 羽鳥 努
専門分野：病理学全般

看護部

看護部は、専従のがん専門看護師、緩和ケア認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師が所属しており、そして、がん相談支援センターに看護師を配置しております。様々ながん患者さんに関わる看護師は、がんと診断された患者さんやご家族に寄り添い、治療を受ける過程で、がんと上手につきあえるよう関わります。患者さんが、がんの治療や療養を続けていく上で大切なのは、“生き生きとその人らしく”です。患者さんの意思決定を尊重し、悩みや不安などの思いを受け止め、納得した治療や療養ができるよう、私たち看護師が多職種と協働し、チームとして患者さんやご家族の支援をいたします。



部長 藤岡 久恵



小泉 はるか
がん看護専門看護師
がん性疼痛看護認定看護師



三上 麻衣
がん化学療法看護認定看護師



平野 知子
緩和ケア認定看護師



上村 友紀
乳がん看護認定看護師



荒野 晶子
がん放射線療法看護
認定看護師

薬剤部

薬剤部では抗がん剤調製や、患者さんへの薬の作用・副作用の説明を行っています。

近年の抗がん剤治療は多様化で進歩が早くなっています。安全かつ有効な治療に貢献できるように、薬剤師は薬のエキスパートとして薬物治療に尽力しています。また薬の説明だけではなく、副作用軽減のための提案を行うなど、医師、看護師などと共同してチーム全体で個々の患者さんに寄り添った治療となるように取り組んでいます。

最近では入院の患者さんだけではなく、外来患者さん、地域薬局との連携にも力を入れており、地域全体で患者さんの治療をサポートできる体制を目指しています。



部長 實川 東洋

相談窓口のご案内

(1) 面談について

国立がん研究センターの研修を受けたがん専門相談員が個室でお話しを伺い、問題解決のお手伝いをさせていただきます。

当院の患者さん・ご家族だけではなく、他院にいられている方や一般市民の方など、どなたでもご利用いただけます。

- ★事前予約も承っております。直接窓口へお越しいただくか、電話予約をご利用ください。
- ★面談による相談は、原則60分以内とさせていただきます。



(2) 電話相談について

電話での相談を行っています。受付時間内にお気軽におかけください。

- ★電話相談は無料で、原則30分以内とさせていただきます。



(3) ひだまり文庫・がん情報コーナー

がんに関する書籍(医学・看護関連の専門書、食事のレシピ、絵本等)をご覧ください。また、貸し出しもしていますので、窓口にお声がけください。

がん情報コーナーは、がん情報冊子、講演会案内など、病気や治療についての情報を設置しています。

(4) パソコンコーナー

インターネットを使って、がん情報サービスや医療機関情報等の情報収集ができます。お気軽にご利用ください。



(5) 外見ケアコーナー

化学療法による脱毛や肌の変色、手術による傷、放射線治療による皮膚炎など、がん治療に伴う外見の変化に対するケア用品を展示しており、直接手に取ってお試しいただけます。

がん相談支援センターでは、女性だけではなく男性から子供さんまで、外見の変化が気になる患者さんの相談に対応しています。



(6) 患者会・サロンの開催

がん患者さんをご家族へ向けた患者会やサロンを開催しております。参加をご希望の方やお問い合わせは、当院がん相談支援センターまでお立ち寄りいただくか、お電話をいただけますようお願いいたします。

①おしゃべりサロン 「ひだまり」

すべてのがん患者さん
とご家族を対象とした
おしゃべり会です。

②乳がん患者会 「和音 ～Wain～」

当院、他院で治療中の
乳がん患者さんが
対象です。

③女性診療科がん患者会 「サロン・ドつばめ」

当院、他院で治療中の
婦人科がん患者さんが
対象です。



がん相談支援センター スタッフ一同



肺がん啓発イベント



前立腺がん啓発イベント



大腸がん啓発イベント(@成田イオン)



乳がん啓発イベント



ケアカフェ



院内の装飾



ピアノコンサート



緩和ケア研修会

外来受診のご案内

【受診時に他の医療機関からの紹介状をお持ちでない方について】

初診及び診療科ごとの受診期間が前回より6カ月経過した場合、診療費の他に保険外選定療養費として診療科ごとに7,700円(税込)のご負担をいただきます。また、終診となり他の医療機関に紹介された方で終診から6カ月以内に再受診された場合、再診時保険外選定療養費として医科3,300円(税込)、歯科2,090円(税込)のご負担をいただきますので予めご了承ください。

① 初診の方

診察申込用紙に必要事項を記入し、マイナ保険証もしくは資格確認書・紹介状を添えて**初診受付**にご提出ください。

(どの科に受診したらよいか分からない場合には、案内の看護師にご相談ください。)

「**受付票**」、「**診察券**」をお受け取りになり、各科外来受付にご提出ください。

② 再診の方

予約の有無にかかわらず**再来受付機**で受付を行ってください。

(該当科に6ヶ月受診歴がない方は、初診受付までお越しください。)

マイナ保険証をお持ちでない方

マイナ保険証をお持ちの方

マイナ保険証確認コーナーでマイナ保険証をご提示ください

「**受付票**」、「**診察券**」を各科外来受付にご提出ください。

各科外来受付

(診察の際に検査・画像診断(レントゲン)等がある場合は)
外来の指示に従い下記の場所に行ってください。

③ 採血室 (B棟1階)

④ 放射線センター (C棟1階)

⑤ 生理機能センター (D棟1階)

外来会計

⑥ **計算受付**にファイル(基本スケジュール・受付票・診察券)・資格確認書(マイナ保険証をお持ちでない方)・各種公費医療証・駐車券をご提出ください。
院外処方せんは、お手元にお持ちください。

⑦ 会計番号をお渡しいたしますので、会計画面にお手元の番号が表示されましたら、**自動支払機**または**会計窓口**にて医療費の精算をお願いいたします。

⑧ 院外処方の方は、お近くの**保険薬局にて「院外処方せん」**をお出しください。(発行日を含め**4日以内**が有効期限となっております)。正面玄関エスカレーター横に無料FAXコーナーをご用意しておりますので、ご利用ください。

院内処方の方は、精算時にお薬引換券が領収書と一緒に発行されます。薬局の画面に引換券番号が表示されましたら「**お薬引換券**」を**薬局窓口**にご提出ください。



日本医科大学千葉北総病院
がん相談支援センター

〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715
TEL 0476-99-1111 (代表)
<https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>